

## 研究報告

順天堂大学保健看護学部 順天堂保健看護研究13  
P.1-10 (2025)

看護系大学におけるキャリア支援基礎調査  
～卒業生のキャリア支援ニーズ～Basic Survey on Career Support at a Nursing University :  
Career Support Needs of Graduates

岡本 紗季\*  
OKAMOTO Saki

酒井 太一\*  
SAKAI Taichi

林 亮\*  
HAYASHI Ryo

小元 まき子\*  
OMOTO Makiko

中林 菜穂\*  
NAKABAYASHI Nao

栗原 明美\*  
KURIHARA Akemi

藤尾 祐子\*  
FUJIO Yuko

石塚 淳子\*  
ISHIZUKA Junko

濱田 千江子\*  
HAMADA Chieko

## 要旨

看護系大学における卒業生への卒後支援のあり方を検討するため、アンケート調査を実施し卒業生のキャリア支援ニーズを明らかにした。キャリア支援ニーズとして三島キャンパスに望むことへの回答の中で、「転職・再就職の相談」は、卒後6年未満の者の回答が卒後6年以上の者の回答に比べて有意に高く、大学としては卒後6年未満の者に対してニーズに応じたキャリア支援を強化する必要性が示唆された。卒業後、看護職として培った経験を活かしたスキル・キャリアアップを望む者や、現職の継続希望、看護職以外の新たな環境での就業希望がある一方で、結婚、出産、育児といったライフステージや生活環境の変化に伴い、職業キャリアにはこだわらずにワークライフバランスを大切にしたいという希望があることが明らかとなった。こうした卒業生の今後のキャリアに関するビジョンに対して大学が主体となり情報交換の場やその後の動向把握などを行うこと、さらには、卒業時に取得した看護師・保健師以外の新たな資格取得に向けた相談窓口や看護職の専門性を活かした次なるキャリアチェンジに向けた学び直しの場の提供、卒後も相互に頼れる場や関係づくりが必要であることが示唆された。

索引用語：看護系大学、卒業生、キャリア支援、ニーズ

Key words : nursing university, graduates, career support, needs

## 1. 研究の背景および目的

現在、我が国の急速な少子高齢化が進む中、看護・介護人材の確保が喫緊の課題となっている。同時に、

看護系大学が令和4年度(2022年度)現在で300校を超え<sup>1)</sup>、看護基礎教育は著しい発展を遂げている。医療および看護ニーズの多様化に伴い看護師等の確保が進められており、看護職の就業数は増加している<sup>2)</sup>。一方、令和5年度(2023年度)病院看護実態調査<sup>3)</sup>では、新卒看護師の早期離職や看護師のメンタルヘルス不調といった臨床現場での課題が挙げられている。今後、

\* 順天堂大学

\* Juntendo University Faculty of Health Science and Nursing

優秀な人材を看護系大学に惹きつけ、さらに養成した看護職の就業継続および卒後支援をどのように図るかが重要である。

順天堂大学保健看護学部（以下、本学部）は、平成24年（2012年）に開設されてから10年以上が経過し、約千数百名の看護人材を育成してきた。多くの卒業生は順天堂大学医学部附属病院をはじめ医療機関で看護師や助産師として勤務している。また、一部の卒業生は静岡県内などの自治体で保健師としても働いている。しかしながら、卒業生の具体的な就業状況は、卒業直後の情報しか把握できていない現状がある。本学部として、卒業生が看護職としてどのように働いているのか、また彼らが本学部に対してどのようなキャリア形成支援の期待や要望を持っているのかを理解する必要がある。この背景から、本学部では令和5年度（2023年度）に「キャリア支援センター」を新たに設立し、キャリア形成支援の取り組みをさらに強化することとした。

先行研究によると、看護系大学の卒業生に関する調査研究は数多く報告されている<sup>4,22)</sup>。西野ら<sup>20)</sup>は、これらの報告を目的に基づき次の3つのカテゴリーに分類している。具体的には、①カリキュラムや教育方法の見直し、②卒後の支援方法の検討、③大学の果たすべき役割の明確化である。各看護系大学が独自に卒後支援の在り方を検討することは、その大学の特徴や卒業生が直面する実務の要求とキャリアの発展に対する多様なニーズを把握するために重要である。また、このような調査から得られた知見により、大学は卒業生の持続的な学習と専門的成長を促し、卒業生の職場での適応能力を高めるための研修プログラムや支援サービスを細やかに設計することができる。さらに、現場の変化に即した教育内容の更新を行い、質の高い看護サービス提供へと繋げることができるため、各大学が独自に卒後の支援方法の検討に関する調査を行うことは非常に有意義であるといえる。そこで、本調査では本学部卒業生への卒後支援のあり方を検討するため、

アンケート調査を実施し、卒業生のキャリア支援ニーズを明らかにすることを目的とした。これにより、今後、本学部のキャリア支援センターによる卒業生へのキャリア支援形成のための基礎的な資料蓄積の一助になると考えられる。

## II. 用語の定義

本研究における「キャリア形成」、「キャリア形成支援」の用語は、日本看護協会の「生涯学習ガイドライン」<sup>24)</sup>に基づき定義する。

### 「キャリア形成」

キャリア形成とは、看護職個人が主体となって、仕事と生活の調和に応じて、自身が望む看護職としてのあり方を思い描き、その実現に向けて必要な生涯学習やその他の様々な経験を積み重ね続ける諸活動と、その積み重ね自体のこと。

### 「キャリア形成支援」

キャリア形成支援とは、看護職を雇用している組織や多様な機関などが、看護職のキャリア形成を支援するために行う活動のこと。特に本調査においては、看護職のキャリア形成を支援するために本学部（同キャリア支援センター）が卒業生に対して行う活動全般とする。

## III. 研究方法

### 1. 研究デザイン

横断研究

Web フォームを用いた無記名自記式質問紙調査

### 2. 対象者

順天堂大学保健看護学部卒業生第1回生から10回生の約1,200名を対象とし、そのうち調査への同意が得られた者。

### 3. データ収集方法

順天堂大学保健看護学部の学部長に対し、研究責任者が書面（依頼・説明文、研究計画書、調査票）と口頭にて説明し、調査への協力組織としての同意を得た。次に、各回生の連絡係に対しても、研究責任者が書面（依頼・説明文、研究計画書、調査票）と口頭にて説明し、調査協力者としての同意を得た。その後、調査への説明文及び回答用の web フォーム URL を研究責任者から連絡係に送信した。そして、連絡係は各回生の調査対象者にこれらを転送した。調査対象者は受信した web フォーム URL において回答した。調査対象者には回答確認のための返信用の個人メールアドレスを入力してもらい、調査対象者が回答後にメールにて回答完了を自ら確認できるようにした。調査対象者の回答をもって調査への同意が得られたこととした。最終的に研究責任者が web フォームからデータを入手した。

### 4. 調査内容

web フォームに掲載する調査内容は以下の通りである。各調査内容は、厚生労働省の「衛生行政報告例（就業医療関係者）」<sup>22)</sup>や日本看護協会の「看護職の多様なキャリアと働き方実態調査」<sup>23)</sup>や先行研究から引用した。また、一部の項目は先行研究を参照し、独自に考案した。

#### 1) 個人に関する情報について

基本属性として、性別、年齢、卒後年数（卒業年・卒業回を併記）、就業状況、職種を尋ねた。

#### 2) キャリア形成支援について

キャリアプランとしての現在のキャリア・生活への満足、今後の取得希望資格、大学院進学希望の有無<sup>10)</sup>、キャリア支援ニーズとして三島キャンパスへの希望を尋ねた。また、今後のキャリアビジョンについて自由記述で尋ねた。

### 5. 分析方法

#### 1) 基本統計量及びクロス集計

基本統計量として、全ての項目を集計した。さらに、卒後年数別に全ての項目とのクロス集計を行った。

#### 2) 卒後年数別比較

本学部は開設12年目を迎え、調査実施時点で第10回生まで輩出していることから、本調査では、第1回生～5回生までを卒後6年以上、第6回生～10回生までを卒後6年未満という2群に分け、全ての項目について比較し卒後年数によるキャリアニーズおよび卒後支援のあり方を検討した。検定は、 $\chi^2$  乗検定を用いた。有意水準は0.05未満とし、統計解析ソフトは、IBM SPSS statistics (ver.29.0) を用いた。

#### 3) 自由記述内容の分析

自由記述については、テキストマイニングを行った。「今後のキャリアのビジョン」への自由記述を回答者毎に一データとして区切り、テキストデータとして用意した。その内容を整理しカテゴリー化した。

## IV. 倫理的配慮

順天堂大学保健看護学部学部長に対し、調査の目的、方法を書面にて説明し同意を得た。その後、研究協力者である各回生の連絡係に対し、調査の目的、方法、倫理的な配慮について研究責任者が書面と口頭にて説明を行った。調査用紙への回答は無記名で回答者の自由意思とし、個人と所属する施設に関する情報の保護、研究協力への任意性、同意撤回の保障、研究結果の公表について文書で説明し、調査用紙への回答をもって調査への協力の承諾とした。なお、本研究は順天堂大学保健看護学部研究等倫理委員会の承認を得て実施した（順保倫第06-1号）。

## V. 結果

卒業生 358 名より回答を得た（回答率 32.5%）。性別は、女性が 323 名（90.2%）、男性が 32 名（8.9%）、「回答しない」が 3 名（0.8%）だった。平均年齢は  $27.8 \pm 2.8$  歳で、卒後年数は 6 年未満が 151 名（42.5%）と 6 年以上が 204 名（57.5%）だった。就業状況については、有収入の職業に就いている者は 328 名（91.6%）だった。職種は、看護師が最も多く 251 名（76.5%）、次いで保健師が 54 名（16.5%）だった（表 1）。

キャリアプランとしての現在のキャリアへの満足は、「そう思う」、「ややそう思う」と回答した者は 251 名（70.1%）、生活への満足について、「そう思う」、「ややそう思う」と回答した者は 293 名（81.9%）と半

数以上が満足と回答していた。今後取得したい資格については 36 名（10.1%）が認定看護師と回答し、

表 1 基本属性

*N=358*

項目	n	(%)	
性別	n= 358	1. 女性	323 ( 90.2)
		2. 男性	32 ( 8.9)
		3. 回答しない	3 ( 0.8)
卒後年数	n= 355	1. 6年以上	204 ( 57.5)
		2. 6年未満	151 ( 42.5)
就業状況 (有収入のみ)	n= 358	1. あり	328 ( 91.6)
		2. なし	30 ( 8.4)
職種	n= 328	1. 看護師	251 ( 70.7)
		2. 保健師	54 ( 15.2)
		3. 助産師	5 ( 1.4)
		4. 養護教諭	2 ( 0.6)
		5. 看護教員	3 ( 0.8)
		6. その他	13 ( 3.7)
年齢	n= 336	平均値 ( $\pm$ SD)	27.8 ( $\pm$ 2.8)

表 2 キャリアプラン

*N=358*

項目	全体 n=358	卒後年数 n=355		p値	
		1. 6年以上	2. 6年未満		
	n (%)	n (%)	n (%)		
キャリアへの満足あり	1. そう思う	72 ( 20.1)	40 ( 19.6)	31 ( 20.5)	0.34
	2. ややそう思う	179 ( 50.0)	107 ( 52.0)	70 ( 46.4)	
	3. あまりそう思わない	91 ( 25.4)	51 ( 25.0)	40 ( 26.5)	
	4. そう思わない	16 ( 4.5)	6 ( 2.9)	10 ( 6.6)	
生活への満足あり	1. そう思う	104 ( 29.1)	65 ( 31.9)	37 ( 24.5)	0.25
	2. ややそう思う	189 ( 52.8)	106 ( 52.0)	83 ( 55.0)	
	3. あまりそう思わない	56 ( 15.6)	30 ( 14.7)	25 ( 16.6)	
	4. そう思わない	9 ( 2.5)	3 ( 1.5)	6 ( 4.0)	
取得希望資格 <sup>c</sup>	1. 専門看護師	23 ( 6.4)	11 ( 5.4)	12 ( 7.9)	0.45
	2. 認定看護師	36 ( 10.1)	17 ( 8.3)	19 ( 12.6)	0.26
	3. 認定看護管理者	4 ( 1.1)	3 ( 1.5)	1 ( 0.7)	0.84
	4. 特定看護師	28 ( 7.8)	14 ( 6.9)	14 ( 9.3)	0.53
	5. 専任教員研修	13 ( 3.6)	7 ( 3.4)	6 ( 4.0)	1.00
	6. 助産師	4 ( 1.1)	2 ( 1.0)	2 ( 1.3)	1.00
	7. 特になし	248 ( 69.3)	142 ( 69.6)	103 ( 68.2)	0.87
	8. その他	46 ( 12.8)	31 ( 15.2)	15 ( 9.9)	0.19
大学院進学希望 <sup>c</sup>	1. 修士課程 (母校)	16 ( 4.5)	10 ( 4.9)	6 ( 4.0)	0.87
	2. 博士課程 (母校)	11 ( 3.1)	7 ( 3.4)	4 ( 2.6)	0.91
	3. 修士課程 (他大学)	12 ( 3.4)	7 ( 3.4)	5 ( 3.3)	1.00
	4. 博士課程 (他大学)	10 ( 2.8)	5 ( 2.5)	5 ( 3.3)	0.87
	5. わからない	79 ( 22.1)	42 ( 20.6)	37 ( 24.5)	0.45
	6. 特に希望はない	250 ( 69.8)	145 ( 71.1)	102 ( 67.5)	0.55

$\chi^2$  乗検定

c: 複数回答

大学院進学希望は32名(8.9%)でそのうち16名(50.0%)が母校の修士課程への進学を希望していた。これらは卒後年数による有意差はみられなかった(表2)。

次にキャリア支援ニーズとして三島キャンパスに望むことは、「転職・再就職の相談」が134名(37.4%)、次いで「卒業生が交流できる機会を開催」が103名(28.8%)であった。その中で「転職・再就職の相談」は、卒後6年未満の者の回答が卒後6年以上の者の回答に比べて有意に高かった( $p<0.02$ ) (表3)。

さらに、「あなたの今後のキャリアビジョンはどのようなものですか」の問いに対する自由記述では、【経験を活かしたスキル・キャリアアップをしたい】【ワークライフバランスを大切にしたい】【現職を継続したい】【新たな環境で働きたい】の4カテゴリーが抽出された(表4)。以下、カテゴリーを【 】, サブカテゴリーを〈 〉で示す。

【経験を活かしたスキル・キャリアアップをしたい】は、〈現在の専門性の上でスキル・キャリアアップしたい〉〈子育てが落ち着いたらスキルアップをしたい〉〈経験を活かして新たな環境で働きたい〉の3サブカテゴリーから生成された。教職や研究職、管理職、資格取得に対する希望や、これまでの経験を活かして新たなフィールドでの就業の希望、子育てが落ち着いて

からスキルアップしたいというような、現在の専門の延長線上にあるキャリアアップに対する希望が記述されていた。

【ワークライフバランスを大切にしたい】は、〈家庭・育児と仕事を両立したい〉〈ワークライフバランスを大切にしたい〉の2サブカテゴリーから生成された。家庭と育児の優先および両立や、収入にはこだわらず、ワークライフバランスを大切にしたいという希望が記述されていた。

【現職を継続したい】は、〈子育てが落ち着いたら復職したい〉〈今の仕事を続けたい〉の2サブカテゴリーから生成された。現職の継続や子育てが落ち着いたら元の職場、もしくは経験を活かせる職場への復帰に対する希望など、現職の継続への希望が記述された。

【新たな環境で働きたい】は、〈子育てが落ち着いたら新たな環境で働きたい〉〈新たなフィールドに転職したい〉〈海外で働きたい〉の3サブカテゴリーから生成された。トラベルナースやシップナース等の看護職ではあるがこれまでとは異なるフィールドでの就業の希望や、企業やフリーランス、看護職以外の仕事など看護職とは異なる職種への希望、海外での就業の希望など、新たな環境での就業の希望が記述された。

表3 キャリア支援ニーズ

N=358

項目	全体 n=358 n (%)	卒後年数 n=355		p値
		1. 6年以上 n (%)	2. 6年未満 n (%)	
キャリア支援として				
三島キャンパスに望むこと				
1. 研修や研究会の開催	72 (20.1)	38 (18.6)	34 (22.5)	0.44
2. 研究の支援	47 (13.1)	22 (10.8)	25 (16.6)	0.15
3. 大学院への進学相談	70 (19.6)	33 (16.2)	37 (24.5)	0.07
4. 転職・再就職の相談	134 (37.4)	65 (31.9)	68 (45.0)	<b>0.02</b>
5. 卒業生の動向把握と情報提供	94 (26.3)	51 (25.0)	43 (28.5)	0.54
6. 卒業生が交流できる機会を開催	103 (28.8)	56 (27.5)	46 (30.5)	0.62
7. 特になし	113 (31.6)	71 (34.8)	41 (27.2)	0.16
8. その他	11 (3.1)	8 (3.9)	2 (1.3)	0.26

χ<sup>2</sup>乗検定  
c: 複数回答

表4 今後のキャリアビジョンについて

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
経験を活かしたスキル・ キャリアアップをしたい	現在の専門性の上でスキル・キャリアアップしたい	現在の職種で経験を積みたい
		教員を目指したい
		管理職を目指したい
		大学で学び直したい
		資格を取得したい
	研究者になりたい	
	子育てが落ち着いたらスキルアップに取り組みたい	子育てがひと段落したらスキルアップに挑戦したい
	経験を活かして新たな環境で働きたい	他科で経験を積みたい
		病棟での経験を踏まえて転職したい
		子どもや家族との時間を中心に考えられる仕事がしたい
家庭を優先して現状のまま働きたい		
家庭・育児と仕事を両立したい		
ワークライフバランスを 大切にしたい	ワークライフバランスを大切にしたい	
	看護職でためた資金で趣味を充実したい	
	給料と業務量のバランスの良い職場で働きたい	
	給料が高くなくとも心身ともに穏やかに働きたい	
	ワークライフバランスを大切にしたい	
現職を継続したい	子育てが落ち着いたら復職したい	子育てが落ち着いたら経験を活かして復職したい
		子育てと家計のバランスを見て復職したい
	今の仕事を続けたい	現在の仕事を続けたい
		細く長く続けたい
		結婚しても働き続けたい
		どのような形でも今の専門分野を継続したい
今の仕事を継続したい		
新たな環境で働きたい	子育てが落ち着いたら新たな環境で働きたい	子育てが落ち着いたら新たな環境で働きたい
		トラベルナースとして活動したい
		人材育成に携わりたい
		シブナースとして働きたい
		他科を経験したい
	新たなフィールドに転職したい	新しい看護師の働き方を発信したい
		クリニックで働きたい
		訪問看護に転職したい
		企業に転職したい
		保健師に転職したい
		起業、経営に携わりたい
		企業保健師に転職したい
		フリーランスで働きたい
海外で働きたい	病院以外で働きたい	
	看護職以外の仕事がしてみたい	
	海外に移住したい	
	ワーキングホリデーに行きたい	
	海外で看護師として働きたい	
青年海外協力隊に参加したい		

## VI. 考 察

本調査に回答した卒業生の大部分が、看護師・保健師として就業しており、自身のキャリアや生活への満足は高かった。また、より専門性の高い資格の取得希望や大学院への進学希望を有していることも明らかとなった。

キャリア支援ニーズとして三島キャンパスに望むことは、「転職・再就職の相談」、「卒業生が交流できる機会を開催」、「卒業生の動向把握と情報提供」、「大学院への進学相談」であった。この結果について竹本<sup>11)</sup>らは、看護系大学の継続教育に対する卒業生の期待を自由記述から分析し、「研修会や公開講座の開催」「キャリア転職支援」「メンタルヘルスの支援」「看護職や学生との交流」という4つのカテゴリーを抽出している。さらに、竹内<sup>18)</sup>は、卒業生が大学に求める卒後支援を質問紙調査から集計し、最も多いのは「図書館利用の優遇」、次いで「卒業生向け研修会」「支援窓口の設置」「研究支援」「卒業生ネットワークの構築」であると述べており、本研究における「転職・再就職の相談」、「卒業生が交流できる機会を開催」については先行研究と同様の結果であった。特に、「転職・再就職の相談」は、卒後6年未満の者の回答が卒後6年以上の者の回答に比べて有意に高かった。津野<sup>23)</sup>によると、特に経験年数5年から14年の間にはキャリアアップを決断する時期とされている。このことから卒後6年以上の者は、看護師としての実務経験を積むにつれ、日々の業務に加えて実習指導者や部署内での後進の育成に向けた教育的立場など様々な役割を担う中心的存在として、臨床現場で幅広く活躍しているのではないかと考える。一方で、就職後から卒後6年未満にある者は、日々の業務に追われる状況や自分の能力への不安から自身の評価を下げたり、不満からの離職に繋がる可能性があり、この時期のキャリアアップ支援が必要であると八木<sup>27)</sup>は述べている。このことから、看護師としての実務経験が浅く成長過程にある者は、入職時に想像して

いた看護師像と臨床現場とのギャップにリアリティショックを受けやすく、早期離職や休職等に繋がりやすいのではないかと考える。さらに竹内<sup>15)</sup>は、卒後間もない世代は看護に限定されていない資格にも興味を持っており、看護職として将来的に様々な可能性を探っている時期と述べていることから、卒後6年未満であっても時期によってニーズが変化することを十分に考慮したうえで、大学としては卒後6年未満の者へのキャリア支援を強化する必要がある。

今後のキャリアビジョンにおける自由記述の結果においても、卒業後、看護職として培った経験を活かしたスキル・キャリアアップを望む者や、現職の継続希望、看護職以外の新たな環境での就業への望みが明らかとなった。また、結婚、出産、育児といったライフステージや生活環境の変化に伴い、職業キャリアにはこだわらずにワークライフバランスを大切にしたいという希望があることが明らかとなった。こうした卒業生の今後のキャリアに関するビジョンについて大学が主体となり、情報交換の場やその後の動向把握などを行い、さらなる支援強化に努めていくことが課題である。西梅<sup>28)</sup>の報告では、専門性向上に向けた研修や専門知識に関する情報共有・交換の場を通じて、最新の動向を伝え、実践に連動させていくことが、大学が担う卒後支援の大きな役割であると述べている。また、同職種の交流の場や卒業生相互の交流の場を通じて卒業生同士が学び合い、繋がる場を提供しながら卒業生と協働で展開していくことも、地域貢献を見据えた大学の役割であると述べている。

こうした卒業生のキャリア支援ニーズに対して、特に看護系の大学教育は専門職業教育としての特性を持ち、専門職業性と学問追求という二本柱を両立できる自律した人材を育成することを使命<sup>29)</sup>としていることから、看護職という強みを生かした多種多様な情報を保管していくこと、学部の卒業生であるという共通点からロールモデルを提供するなど大学としてあらゆる

ニーズに応じていく必要がある。そして、卒業時に取得した看護師・保健師以外の新たな資格取得に向けた相談窓口や看護職の専門性を活かした次なるキャリアチェンジに向けた学び直しの場の提供、卒後も相互に頼れる場や関係づくりが必要である。また、異なるフィールドでのキャリアアップについては卒業生同士の情報交換による新たな視点や刺激を与えていく必要がある。そこで、本学部のキャリア支援の一環として、令和6年度第1回目のホームカミングデイを開催し、本学部卒業生5名をパネリストとして招き、アルムナイパネルディスカッションを実施した。このような活動を通して、卒後のキャリア支援の一助となることを期待したい。

## VII. 本研究の限界と今後の課題

本調査結果において回答率32.5%であり、卒業回生により回答数のばらつきがみられ、本学部の卒業生全体の意見が反映されているとは言い難い。元々、在学生や卒業生の男女比は異なっているため女性が多い職種であるという特徴を鑑み、対象者のライフステージにおけるキャリア支援の課題を抽出することが今後の課題である。本研究では卒後年数を6年で区分し一定の知見を得ることができたが、今後はより多角的な分析を行うために、経験年数のみならず看護職のキャリア発達段階や臨床実践能力の発達過程、年齢なども考慮した上で、より効果的なキャリア支援のあり方を明らかにしていく必要がある。

## VIII. 結論

看護系大学における卒業生のキャリア支援ニーズについて、卒業生の大部分が看護師・保健師として就業しており、自身のキャリアや生活への満足は高かった。また、より専門性の高い資格の取得希望や大学院への進学希望を有していることも明らかとなった。キャリア支援ニーズとして三島キャンパスに望むことは、「転

職・再就職の相談」、「卒業生が交流できる機会を開催」、「卒業生の動向把握と情報提供」、「大学院への進学相談」であった。特に、「転職・再就職の相談」は、卒後6年未満の者の回答が卒後6年以上の者の回答に比べて有意に高く、大学としては卒後6年未満の者に対してニーズに応じたキャリア支援を強化する必要性が示唆された。卒業後、看護職として培った経験を活かしたスキル・キャリアアップを望む者や、現職の継続希望、看護職以外の新たな環境での就業希望がある一方で、結婚、出産、育児といったライフステージや生活環境の変化に伴い、職業キャリアにはこだわらずにワークライフバランスを大切にしたいという希望があることが明らかとなった。こうした卒業生の今後のキャリアに関するビジョンに対して大学が主体となり、情報交換の場やその後の動向把握などを行うこと、さらには、卒業時に取得した看護師・保健師以外の新たな資格取得に向けた相談窓口や看護職の専門性を活かした次なるキャリアチェンジに向けた学び直しの場の提供、卒後も相互に頼れる場や関係づくりが必要であることが示唆された。

## 謝辞

本研究にあたり、ご協力いただきました本学部卒業生の皆様に深く感謝申し上げます。

## COI

本調査は、令和5年度（2023年度）保健看護学部共同研究助成「保健看護学部卒業生のキャリア形成支援～卒後10年以内の看護師等のキャリアの現状と課題」を受け、その一部として行った。

## 引用文献

- 1) 厚生労働省（2022）：看護師等学校養成所入学状況及び卒業生就業状況調査（2024.12.3閲覧）  
<<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/100-1.html>>

- 2) 厚生労働省 (2023) : 看護師等の確保を促進するための措置に関する基本的な指針 (2024.12.4 閲覧)  
<<https://www.mhlw.go.jp/content/001160932.pdf>>
- 3) 日本看護協会 (2024) : 2023 年病院看護実態調査結果 (2024.12.4 閲覧)  
<[https://www.nurse.or.jp/home/assets/20240329\\_nl04.pdf](https://www.nurse.or.jp/home/assets/20240329_nl04.pdf)>
- 4) 山崎智子, 藤田佐和, 宮内美紀子 : 高知女子大学家政学部看護学科卒業生の動向と職業的志向性, 高知女子大学紀要 (自然科学編), 41, 79-88, 1993.
- 5) 井上仁美, 河野保子, 薬師神裕子, 他 : 【卒業生のフォローをどうしていますか?】看護系大卒者の動向と今後の課題 開学 10 年を迎えた愛媛大学医学部看護学科の卒後状況調査から, 看護教育, 46(7), 535-540, 2005.
- 6) 中野照代, 荒川靖子, 入江拓, 他 : 聖隷クリストファー大学看護学部卒業生の動向調査職種別・卒業年 3 区分別比較, 聖隷クリストファー大学看護学部紀要, (16), 77-90, 2008.
- 7) 日比野直子, 野呂千鶴子, 山路由実子 : 看護大学における卒業生サポートネットワークの構築をめざした卒後動向の把握および支援ニーズに関する研究, 保健師ジャーナル, 65(8), 676-682, 2009.
- 8) 杉浦浩子, 中島美奈子, 伊藤育子, 他 : 岐阜大学医学部看護学科卒業生の動向および勤務状況の実態, 岐阜大学医学部紀要, 56(1), 1-8, 2010.
- 9) 小池秀子, 江守陽子, 三木明子, 他 : 看護学士課程修了後 1 年から 3 年の看護職の就業動向と職場定着状況, 日本看護学会論文集 : 看護管理, (41), 129-132, 2011.
- 10) 大井千鶴, 藤尾麻衣子, 松村ちづか, 他 : 卒業生動向調査からみた本学におけるキャリア形成支援の検討 (第 2 報) 今後の就業継続状況と大学院進学の観点から, 武蔵野大学看護学部紀要, (8), 77-83, 2014.
- 11) 竹本由香里, 桑名佳代子, 原玲子, 他 : 看護系大学におけるキャリア開発支援に関する研究 卒業生の動向調査から, 北日本看護学会誌, 16(2), 23-31, 2014.
- 12) 藤尾麻衣子, 大井千鶴, 松村ちづか, 他 : 卒業生動向調査からみた本学におけるキャリア形成支援の検討 (第 1 報) 卒業時における就職先の選択理由と現在の就業状況の観点から, 武蔵野大学看護学部紀要, (8), 69-75, 2014.
- 13) 南堀直之, 村井嘉子, 中道淳子, 他 : 石川県立看護大学看護学部卒業生の動向調査, 石川看護雑誌, 11, 51-62, 2014.
- 14) 浜端賢次, 江角伸吾, 島田裕子, 他 : 自治医科大学看護学部卒業生の現状調査 看護職を継続するための要因に着目した一考察, 自治医科大学看護学ジャーナル, 11, 65-73, 2014.
- 15) 寺下憲一郎, 和田庸平, 高橋美美, 他 : 高知大学医学部看護学科の卒業生動向調査 1 期生から 13 期生を対象として, 高知大学看護学会誌, 9(1), 9-22, 2015.
- 16) 岡田弘美, 伊藤美千代, 川原理香, 他 : 東京医療保健大学医療保健学部看護学科卒業生の動向調査 (第 1 報) 職業コミットメントに焦点をあてて, 東京医療保健大学紀要, 12(1), 27-33, 2017.
- 17) 川原理香, 伊藤美千代, 岡田弘美, 他 : 東京医療保健大学医療保健学部看護学科卒業生の動向調査 (第 2 報) 卒業生が職務遂行をする中でキャリアを育む経験と求める支援, 東京医療保健大学紀要, 12(1), 43-51, 2017.
- 18) 竹内幸江, 安田貴恵子, 有賀美恵子, 他 : 長野県看護大学看護学部卒業生の動向調査 1 期生 (1998 年度卒業) から 16 期生 (2013 年度卒業) までの調査, 長野県看護大学紀要, 19, 23-32, 2017.
- 19) 塩澤百合子, 板垣昭代, 野尻由香, 他 : A 大学看

護学部卒業生の動向調査 就業状況を中心に，獨協医科大学看護学部紀要，13, 73-86, 2020.

- 20) 西野毅朗，河原宣子，梶谷佳子：京都橘大学看護学部卒業生の動向ならびに意識調査，京都橘大学研究紀要，(46), 79-92, 2020.
- 21) 米倉佑貴，新沼久美，森明子，他：聖路加国際大学卒業生のキャリアの傾向と年次推移 聖路加国際大学看護教育 100 周年記念卒業生動向調査から，聖路加国際大学紀要，7, 27-36, 2021.
- 22) 厚生労働省：令和 2 年衛生行政報告例（就業医療関係者）の概況（2022）
- 23) 日本看護協会：看護職員の多様なキャリアと働き方実態調査（2019）
- 24) 日本看護協会：看護職の生涯学習ガイドライン（2023）
- 25) 樋口耕一：テキスト型データの計量的分析，理論と方法，19(1), 101-115, 2004.
- 26) 津野亜優実，関井愛紀子：男性看護師が抱くキャリアビジョンとキャリアアップに対する思い—世代間における比較検討—，日本看護学会論文集看護管理，553-556, 2012.
- 27) 八木寿乃：男性看護師のキャリア形成と看護職場長のキャリア形成支援の現状と課題，榛原総合病院学術雑誌，17(1), 9-15, 2022.
- 28) 西梅幸治，加藤由衣，雑賀正彦，他：学部卒業生にみるソーシャルワーカーとしてのコンピテンシーに関する分析—社会福祉系大学でのキャリア形成に向けた卒後支援との関連から—，高知県立大学紀要 社会福祉部編，71, 35-50, 2021.
- 29) 井上仁美，後藤淳，他：看護学科学生を対象とした臨地実習でのキャリア面接の実践と検証，大学教育ジャーナル，10, 63-68, 2012.